

「日々の理科」(第2664号) 2021, 10, 29

## 「アナグリフ多摩川源流への旅(4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

国分寺崖線から少し南側の「立川段丘」上に、「浅間山」(せんげんやま)という丘がある。府中市では唯一の「山」で、全域が「浅間山公園」という自然公園になっていて、市民に親しまれている。



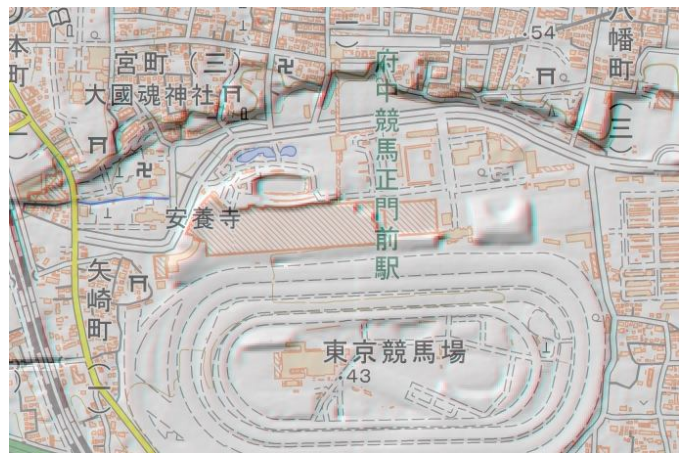
標高は約80m、周囲の段丘の標高が約50mなので、比高は30mである。これはかつての多摩川(古多摩川)の浸食をまぬがれた隆起の一つである。国分寺崖線上の「武蔵野段丘」は、たとえば武蔵小金井駅は標高が約70mなので、上位段丘よりも浅間山のほうが標高が高いというのが、非常に不思議である。



写真は「新小金井街道」から見た浅間山である。私は学生時代に、この浅間山の麓の学習塾でアルバイトをしていて、よく子どもたちと遊んだ思い出がある。ちょうど写真のあたりに学習塾があった。



更に南に下って多摩川に近づくと、もう一つの段丘崖がある。これは「府中段丘」と呼ばれている。



国分寺崖線に比べて高低差が小さく、最大でも10m程度しかない。現地に行ってもなかなか崖線の存在を実感できないが、東京競馬場の北側は比較的開けていて、よくわかる。



写真は、東京競馬場近くの「府中崖線」の様子だ。黄色い民家の裏側の森が崖線で、手前の道はここでT字路になって分断されている。京王線の「府中競馬正門前駅」や「大國魂神社」は、この崖上にある。私は国分寺崖線はほぼ歩いたことがあるが、府中崖線はまが未踏の場所が多いので、機会があれば歩いてみたい。